

野球撮影に特化したカメラ選び

1. 重視するスペックは・・・

カメラの機能比較や細かな説明は、そういうWebページがあるので、そちらに任せるとして、この場では『野球撮影』に重点を絞ります。

カメラのスペックは、さまざまありますが、野球撮影に要求されるものに限って言えば次の4つです。

①フォーカスタイム

(オートフォーカス設定時の、被写体の焦点を合わせる速度)

②連写コマ数

(連写撮影時に、1秒あたりに撮影する枚数)

③明るいレンズ

(レンズが集めきる明るさ)

④ズームレンズ

(近い場所を撮る場合は広角、遠い場所は望遠)

上の2つは本体側、下の2つはレンズ側の性能ということになります。

まず①のフォーカスタイムはスペック表に表示されない場合がありますが、メーカーのサイトには喧伝している場合があります。では、なぜフォーカスタイムが野球撮影にとって大事なのか？

野球撮影する場合、被写体の殆どは選手です。守備時であれば打球を追う野手、攻撃時であれば打撃の途中、走塁等々、選手は常に動いています。次にどう動くのか？何となく予測しながら、動く選手を追いかけて撮影するため、フォーカスタイムが早くなければ、フォーカスが合う前に、プレイが終わってしまったり、慌ててシャッターを切った結果、ピンぼけ写真になったり・・・という事があります。

また、③の明るいレンズにも通じますが、曇天など明るさが足りない場合、フォーカスが合う時間は、晴天時より長くかかります。野球撮影の場合、選手や球のブレを抑えたい場合、シャッタースピードは1/4000秒くらいに設定します・・・となると、

シャッターが開いている時間が短いので、その間にレンズが光を取り込む必要があります。シャッタースピードを露光時間と表現するのはそのためであり、暗いレンズだと十分に光を取り込む事が出来ず、暗い写真になることがあります。右写真は、シャッタースピードは1/4000秒ですが、逆光により暗くなった例です。



次にレンズの見分け方ですが、レンズには『14-45mm F3.5-5.6』というような表示がありますが、『14-45mm』は焦点距離で、『F3.5-5.6』が明るさを表します。細かい説明は長くなりますし、何度も書いておりますとおり『野球撮影』に特化していますので、ざっくり進めます。

集合写真や応援席など、近い場所を撮る場合は、数が小さいものを選び、外野手など遠い場所を撮る場合は、数が大きい物を選びます。私の経験上、野球のスピードに追従するには、レンズをいちいち取り替えては間に合わないため、全てをひと通り対応出来る『15-200mm』とか『18-300mm』などのレンズがついた『レンズキット』がオススメです。細かいことを言えば、レンズは分けたほうがいいですし、『18-300mm』のようなレンズは本来はオススメ出来ません。但し、野球撮影に特化すれば、そこまで細かく問う必要はないと考えます。そして『F3.5-5.6』については、数字が小さければ明るいレンズと覚えていけばよく、このレンズの場合、望遠側に焦点を合わせると『F5.6』ということになり、暗いレンズになります。一般的に、明るいレンズは高価で、暗いレンズは安価です。野球撮影であれば、『F4』前後あれば問題ないかと思います。

さて、次は②の連写コマ数ですが、前述のとおり、野球は選手や球の動きに追従する必要があります。投球、走塁、打撃、送球・・・全ての動きに対して連写コマ数が多いほうがよい写真が撮れる可能性が高まります。撮影後、自宅に帰っての整理が大変な作業になりますが、似た場面は再び遭遇しても、全く同じ場面は二度と訪れません。二度と撮れない一瞬を切り取るためには、『最低でも7コマ/秒以上が必要』と思います。尚、ワタクシの機種の場合、12コマ/秒が最高でしたが、その設定にした場合、シャッタースピードと露出が任意設定出来ないカメラで、任意で撮りたい場合の最高は7コマ/秒でしたので、注意が必要です。

連写が多ければ、打撃のインパクトの瞬間を捉える可能性はグッと高まりますし、選手の表情の変化も捉えやすくなります。

野球に限らず、スポーツシーンの撮影は『連写』が基本



こういう瞬間は撮れそうで、なかなか撮れません



レンズのF値に触れましたので、そのまま『絞り』について。
カメラの設定の中で、『絞り』はシャッタースピードと密接な関係にあります。
細かい説明は、他のWebで解説されてますので割愛します。このページは、何度も云いますが『野球撮影』のみに特化して説明しますので、ご了承下さい。
簡単に言えば、『曇天』のように周辺が暗い場合は、絞り値を少ない数字に合わせ、『晴天』のように明るい場合は、大きい数字に設定します。
また、シャッタースピードを速く（1/4,000秒程度）すると、明るさが必要になるため、絞り値を低い数字に設定する必要があります。ISO感度は逆に、空が暗い場合は大きい数字、明るい場合は小さい数字に合わせます。目安は『晴天時=100』ですが、基本的には『AUTO』で大丈夫かと思えます。但し、ISO感度はあまり大きい数字にすると、写真自体は明るくなる反面、画像にノイズが表れるために、必要以上に大きくすることは、あまりオススメ出来ません。



素早い動きに対応するべく、シャッタースピードを上げることで止まっているような写真を撮る方法もありますが、逆にシャッタースピードを落として、動きを強調する撮り方もあります。但し、シャッターを切る瞬間にカメラが動いてしまえば、写真全体がブレた感じになるので、一脚等でカメラを固定して撮ることが秘訣です。



シャッタースピード1/4,000秒で止まった感じが出ます



シャッタースピード1/40秒で疾走感が出ます



野球撮影では、三脚を使う機会は殆どありませんが、呼吸や心臓の鼓動などでカメラが微妙に動きます。それを抑えつつ、疲労を軽減し、素早い動きに対応出来る一脚は、あると便利ですが、ワタクシ以外で一脚を使用している保護者カメラマンはいらっしゃいませんでした。因みに、コンデジ（コンパクトデジカメ）にある『スポーツモード』のシャッタースピードは1/640秒程度ですので、上段のような写真は撮れません。

